

柔道部

山城12回 西堀 孝三郎

昭和三十三年当時、未だ柔道場が兵器庫から、教室を転々としていた時代、二十畳位の小さなスペースに四十名前後の部員がひしめきあつての練習が続いた。三年になった春、ようやく念願の武道専用の施設が完成した。

更に上の柔道を目指す者は、放課後当時の町道場へ通つて稽古に励んだものです。

団体戦ではベスト4に残る成績だったが、初めての国体選手として出場した後、後輩二年生、一年生の中から引き続いて国体選手が誕生し柔道部の全盛期を迎えた時期が懐かしく思われる。厳しくも優しくかった諸先輩に感謝を送りたい。